

コロナ禍での身体機能低下に影響する因子の検討
研究分担者 鉄永倫子 岡山大学病院整形外科 助教

研究要旨：コロナ禍での身体機能低下に影響する因子の検討を行い、コロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与した。

A. 研究目的

岡山大学病院では、難治性慢性痛患者に対して2012年より多職種が集まり運動療法を中心とした集学的なアプローチを外来で行っている。特に社会生活を送る上で問題となるのは就労であり、当院では総合患者支援センターと連携して慢性痛患者に積極的に復職支援を行ってきた。コロナ禍の現在、就労を目標とする患者さんは減少し当院の就労支援システムを利用し就労した患者さんはおらず、相談・アドバイス・県外ハローワークへの引継ぎに留まった。そこで、コロナ禍での身体機能低下に影響する因子の検討を行い、仕事と慢性痛の関係について検討したので報告する。

B. 研究方法

対象は2020年8月25日から9月30日に実施されたJapan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS)の慢性痛あり・なしの4,972 matched-participants (男性2311名、女性2661名)、平均年齢53.8歳、慢性痛あり群2486名、慢性痛なし群2486名であった。

すべての参加者は自己申告のアンケートにインターネット上で回答した。

(倫理面への配慮) インターネット調査上で同意を得た。

C. 研究結果

身体機能の低下に影響する因子を多重ロジス

ティック回帰分析したところ、コロナ禍での身体機能低下に元々あった慢性痛は関与しないことがわかった。一方でコロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与した。

D. 考察

コロナ禍の影響として、今後慢性痛患者のみならず、新たな慢性痛患者の増加が懸念されている。また、失業も更なる問題となっており、復職も困難な状況が続いている。そのような中で、今回、元々あった慢性痛は進呈機能低下に影響しないが、コロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与したことから、いかに、コロナ禍でも就労や学業を続けることがのちの身体機能維持に影響することが明らかとなった。今後、慢性痛患者の集学的治療にあたる際に、現在の環境の維持に努めるようにアドバイスしていきたいと考える。

E. 結論

コロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与した。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Muraoka S, Yamane K, Misawa H, Takigawa T, **Tetsunaga T**, Oda Y, Nakanishi K, Ozaki T, Tanaka T. Assessment of the Concordance Rate between Intraoperative Pathological Diagnosis and the Final Pathological Diagnosis of Spinal Cord Tumors. *Acta Med Okayama*. 2021 Aug;75(4):455-460. doi: 10.18926/AMO/62397. PMID: 34511612.
2. Kajiki Y, Tsuji H, Misawa H, Nakahara R, **Tetsunaga T**, Yamane K, Oda Y, Takao S, Ozaki T. Psoas muscle index predicts osteoporosis and fracture risk in individuals with degenerative spinal disease. *Nutrition*. 2021 Jul 24;93:111428. doi: 10.1016/j.nut.2021.111428. Epub ahead of print. PMID: 34474186.
3. Misawa H, Oda Y, Yamane K, **Tetsunaga T**, Ozaki T. Maximal Resection of Intramedullary Lipoma Using Intraoperative Ultrasonography: A Technical Note. *Acta Med Okayama*. 2021 Apr;75(2):239-242. doi: 10.18926/AMO/61907. PMID: 33953432.
4. Tsuji H, Misawa H, Takigawa T, **Tetsunaga T**, Yamane K, Oda Y, Ozaki T. Quantification of patellar tendon reflex using portable mechanomyography and electromyography devices. *Sci Rep*. 2021 Jan 27;11(1):2284. doi: 10.1038/s41598-021-81874-5. PMID: 33504836; PMCID: PMC7840930.
5. Tsuji H, **Tetsunaga T**, Tetsunaga T, Misawa H, Nishida K, Ozaki T. Cognitive factors associated with locomotive syndrome in chronic pain patients: A retrospective study. *J Orthop Sci*. 2021 Sep;26(5):896-901. doi: 10.1016/j.jos.2020.08.007. Epub 2020 Sep 14. PMID: 32943300.
6. 太田晴之, 齋藤圭介, 原田和宏, 京極真, **鉄永倫子**, 西田圭一郎, 千田益生. 慢性疼痛患者を対象とした痛みリエゾン外来における活動能力の帰結の類型化に関する検討. *日本保健科学学会誌*23巻4号 176-186, 2021
7. **鉄永倫子**, 鉄永智紀, 西田圭一郎. 運動器慢性痛に対する多面的アプローチ. *Journal of Musculoskeletal Pain Research*12巻3号 248-250, 2021
8. 山根健太郎, 三澤治夫, 小田孔明, **鉄永倫子**, 尾崎敏文. 【整形外科医の職業被曝】整形外科診療における被曝の現状と低減対策 脊髄造影検査と神経根ブロック. *整形・災害外科*64巻6号 765-770, 2021 DOI : 10.18888/se.0000001750
9. **鉄永倫子**, 鉄永智紀, 西田圭一郎. 【運動器疼痛】運動器疼痛を対象とした医療体制腰痛に対するチームアプローチ. *ペインクリニック*42巻別冊春 S247-S254, 2021

2. 学会発表

1. **鉄永倫子**, 鉄永智紀, 西田圭一郎, 島村安則, 三澤治夫, 尾崎敏文. 女性脊椎外科医としてのキャリア形成を考える. 第94回日本整形外科学会学術総会、2021年5月20日～5月21日
2. **鉄永倫子**, 鉄永智紀, 西田圭一郎, 尾崎敏文. 神経障害性疼痛に対するアプローチ～ミロガバリンへの期待～. 第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会、2021年4月22日～24日
3. **鉄永倫子**, 鉄永智紀, 西田圭一郎, 三澤治夫,

尾崎敏文. 電気グループから岡山脊椎グループの異端児へ. 第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会、2021年4月22日～24日

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

なし